

# JTBF 観光経済レポート vol.11



## 2006年1-3月期の動向と今後の見通し

# 2006 年 6 月 財団法人 日本交通公社

観光文化事業部 東京都千代田区丸の内 1-8-2 Tel.03-5208-4704 Fax.03-5208-4707 http://www.jtb.or.jp



## 観光経済レポート



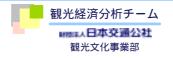


#### 1-3 月期の総括 ~ 宿泊旅行は豪雪で 4.7%減。観光地では日帰り客が増加

- ・ 06 年 1-3 月期の延べ宿泊旅行者数は前年同期比 4.7%減と、10-12 月期の 2.8%増からマイナスに転じた(「JTBF 旅行量調査」)。豪雪の影響が大きく、「東北」「北陸」方面への旅行が減少している。
- ・ 旅行形態では、「個人観光旅行」「出張」が減少した一方、「帰省・家事旅行」が 増加している。旅行出発日をみると「年始休暇」「春休み」「土曜日」が増加し、 平日が減少する結果となっている。
- ・ 旅行単価は37,800円で7.4%の増加となり、3期連続でプラスを維持している。
- ・ 一方、市町村を対象とした調査である「JTBF 観光地動向調査」では、1-3 月期の観光客数(含日帰り客)は平均2.4%増と堅調な伸びを示した。宿泊客は3.2%減であったが、日帰り客が3.5%増と寄与した。
- ・ 方面別では、神戸空港、新北九州空港の開港効果がみられ、「九州」「近畿」が増加した。また「北陸」「東北」で豪雪の影響をあげる自治体が多かった。
- ・ 観光地タイプでは、「自然観光地」が 2.9%と堅調だったが、「温泉観光地」は豪雪の影響で宿泊客が減少して 1.7%減となった。
- ・ 「JTBF 宿泊客動向調査」における 1-3 月期の「旅館」の客室稼働率は 52.3%(前年 同期比1.3%減)と 3 期ぶりにマイナスとなった。1 泊 2 食単価も 13,410円(同1.3%減)と微減となっている。
- ・ 地域では「北海道」「東北」「北陸」の減少が目立っている。一方、「関東」は好 天に恵まれたことなどから増加した。施設規模別では、「大規模旅館」がインバウ ンド需要の取込み効果もあって比較的堅調である。
- ・ 「ホテル」の客室稼働率は67.9%(同1.1%増)とプラス基調を維持した。豪雪の影響は旅館に比べると少なく、「北海道」「東海」以外は増加している。
- ・ ルームチャージは 8,570 円 (1.5%減) と若干低下したが、単価を下げたホテルの多くで稼働率が上昇している。

#### 今後の見通し ~ 夏に向け明るい見方が広がる

- ・ 06 年 4-6 月期の観光客数見通しDIは 13.4%ポイントと、GWの日並びが良かったことなどから増加する見込である。7-9 月期は 24.1%ポイントとさらに高い伸びが期待されており、全地域でプラスとなっている。その理由として、観光地でのイベント開催や愛知万博の反動増(除東海)などがあげられている。
- ・ 「旅館」の宿泊客数見通しDIは 4-6 月期が 3.8%ポイント、7-9 月期が 18.6%ポープントと、7-9 月期の伸びが期待されている。
- ・ 「ホテル」の宿泊客数見通しDIについても 4-6 月期が 13.8%ポイント、7-9 月期 が 13.1%ポイントと、「東海」「沖縄」を除き堅調な伸びが見込まれている。施設 規模では「大規模」ホテルのDIが高くなっている。



### 2006年1-3月期 国内宿泊旅行動向

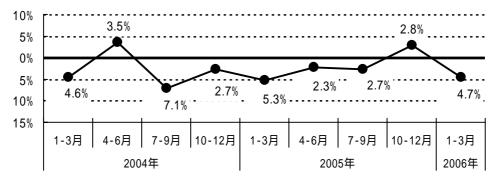


全国的には平成 18 年豪雪の影響で減少、近畿地方発は「神戸空港」開港で増加

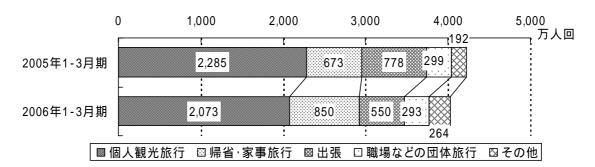
#### 旅行者数 (2006年1-3月期)

2006年1-3月期における延べ国内宿泊旅行者数<sup>\*1</sup>は4,030万人回であり、前年同期の4,227万人回(改訂値)に比べ4.7%減少した。特に東北地方や甲信越・北陸地方への旅行が減少しており、平成18年豪雪の影響を受けた地域への旅行手控えが一因とみられる。近畿地方発の旅行が前年に比べ増加しており、神戸空港の開港が需要を喚起したものとみられる。

旅行種類別にみると、今期の旅行者数減少の要因が「個人観光旅行<sup>2</sup>」ならびに「出張」の減少であることがわかる。一方、年始休暇を利用した帰省が前年に比べ活発な動きをみせたことから、「帰省・家事旅行<sup>3</sup>」は前年に比べて増加した。



図表 1-1 国内宿泊旅行者数(前年同期比)の推移



注) 小数点以下を四捨五入しているため、グラフ中の数値の合計が合わない場合がある

図表 1-2 旅行種類別にみる国内宿泊旅行者数

<sup>\*1 15~79</sup> 歳が対象。14 歳以下および80 歳以上の旅行者数は含まれていない

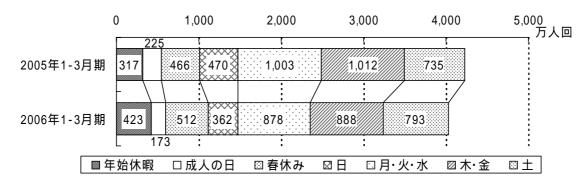
<sup>\*2</sup> プライベートで(個人的に)観光や休養、レジャーを目的とする旅行

<sup>\*3</sup> 帰省や冠婚葬祭、法事、介護、見舞といった家事を目的とする泊りがけの外出

<sup>\*4</sup> 職場の慰安旅行や招待・報奨旅行、町内会や農協、宗教団体等が主催する国内旅行、学校の国内修学旅行など

#### 旅行の出発日別にみる旅行者数

連休別にみると「年始休暇」の国内宿泊旅行者数は前年同期に比べて増加したが、「成 人の日<sup>\*6</sup>」周辺は例年に比べ年始休暇に日付が近かったこともあって減少した。また今期の 「春休み"」は前年に比べ好調であった。これらの連休を除いた曜日別の旅行者数をみると、 前年同期に比べて土曜日出発の同旅行が好調だった反面、平日出発の旅行が減少した。



注 1)「日」「月・火・水」「木・金」「土」には、各種連休の該当期間中に含まれない旅行量を計上注 2) 小数点以下を四捨五入しているため、グラフ中の数値の合計が合わない場合がある

図表 1-3 旅行の出発日別にみる国内宿泊旅行者数

旅行をした人の割合(旅行実施率)と平均旅行回数

2006 年 1-3 月期の国内宿泊旅行の実施率は 24.2%で、前年同期に比べ 1.3%ポイント減 少した。一方、2006年 1-3 月期に旅行をした人の平均旅行回数は前年同期に比べて若干増 加しており、旅行をする人の割合が減ったことが旅行者数減少の要因であることがわかる。

旅行種類別にみると、前年同期に比べて「個人観光旅行」では実施率が減少、「帰省・ 家事旅行」では実施率が増加、「出張」では実施者の平均旅行回数が減少している。

実施率	国内宿泊旅行					
关		個人観光旅行	帰省·家事旅行	出張	職場などの 団体旅行	その他
2005年1-3月期	25.5%	17.2%	4.3%	3.4%	2.8%	1.3%
2006年1-3月期	24.2%	15.7%	5.5%	3.1%	2.7%	1.5%

図表 1-4 旅行実施率と実施者の平均旅行回数

(単位:回)

平均旅行回数	国内宿泊旅行					
(実施者平均)		個人観光旅行	帰省·家事旅行	出張	職場などの 団体旅行	その他
2005年1-3月期	1.59	1.28	1.50	2.20	1.03	1.42
2006年1-3月期	1.61	1.27	1.50	1.71	1.03	1.67

<sup>\*5 2006</sup>年1月1日(日)~3日(火)の3日間(2005年は1月1日(土)~3日(月)の3日間)

<sup>\*6 2006</sup>年1月5日(木)~11日(水)の7日間(2005年は1月6日(木)~12日(水)の7日間)

<sup>\*7 2006</sup>年3月25日(土)~31日(金)の7日間(2005年は3月25日(金)~31日(木)の7日間)

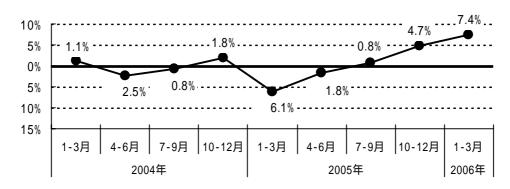
#### 泊数は横ばいながら、旅行単価は3期連続でプラス

旅行泊数 (2006年1-3月期)

2006年1-3月期の平均泊数は1.77泊/回であり、前年同期の1.71泊/回(改訂値)に 比べて0.06泊増とほぼ横ばいであった。

#### 旅行単価 (2006年1-3月期)

2006 年 1-3 月期の平均旅行単価は 37,800 円 / 人回であり、前年同期に比べて 2,600 円 (7.4%)増加した。2005 年 7-9 月期以降 3 期連続でプラスを維持しており、国内宿泊旅行単価は回復基調となっている。



図表 1-5 国内宿泊旅行単価(前年同期比)の推移

(川口明子)

【本レポートで使用したデータソース】JTBF旅行量調査

<調査概要(2006年1-3月期)>

・調査期間:2006年5月5日~5月15日

・調査対象:全国 15~79歳の個人(層化多段無作為抽出法による)

・調査方法:訪問留置調査

・調査数:2,400人

・有効回答数:1,060人(回収率44.2%)

・調査項目:旅行回数、旅行内容(種類・泊数・費用など)



### 2006年1-3月期 観光地動向



#### 全国的には日帰り客が増え増加傾向に、豪雪は温泉観光地に影響

観光客数の動向(2006年1-3月期)

2006 年 5 月に実施した「JTBF 観光地動向調査 <sup>1</sup>」によると、2006 年 1-3 月期の観光 客数は前年同期比 2.4%増と 4 期連続で増加した。

今期は 2 年連続の豪雪で、特に北陸が大きく影響を受けた。東北も前年の大幅減から回復せずほぼ横ばいであった。北海道でも一部影響がみられたが、スキーシーズンが長くなったことや外国人観光客が増加した地域もあったことから 2.2%増となった。

近畿については、2005年を通じて減少していたが今期は増加となった。特に2月の増加が目立つことから神戸空港開港の影響とみられる。新北九州空港が開港した九州についても同様で、特に3月は大幅増となった。

東海は全体としては横ばいであったが、昨年の中部国際空港開港による一時的な観光客 増の反動で、今期は観光客が減少した観光地がいくつかみられた。

観光地タイプ別では、温泉観光地は豪雪の影響で減少となった。自然観光地は豪雪や天候不順により減少した観光地もあったが、10年ぶりに袋田の滝が完全凍結した茨城県大子町など好影響を受けた観光地もあり全体では増加した。

日帰り・宿泊別については、日帰り客 3.5%増、宿泊客 3.2%減となった。特に温泉観光 地で宿泊客が大きく減少しており、豪雪の影響とみられる。

#### 表 1 観光客数の推移

			200	5 年		200	)6 年
		1-3 月期	4-6 月期	7-9月期	10-12 月期	1-3	月期
		前年同期比(%)	前年同期比(%)	前年同期比(%)	前年同期比(%)	前年同期比(%)	有効サンプル数 (件)
全体平	均	3.6	0.8	0.3	3.1	2.4	340
	北海道	1.4	7.8	0.3	3.7	2.2	77
	東北	6.7	0.4	1.2	2.6	0.5	59
	関東	4.6	9.3	1.3	4.9	0.7	38
	甲信越	10.6	3.6	5.9	10.5	2.3	24
+Jh	東海	0.9	2.1	1.6	1.2	0.3	38
地 域 別	北陸	4.8	1.3	2.3	3.8	6.1	6
נימ	近畿	4.9	8.1	1.7	3.4	7.9	20
	中国	5.2	0.0	4.0	3.4	1.6	21
	四国	1.2	3.9	2.6	3.2	2.8	12
	九州	0.4	5.8	2.7	1.5	13.2	34
	沖縄	2.0	2.6	13.7	6.5	4.1	11
	温泉観光地	6.2	1.5	2.5	2.9	1.7	41
	自然観光地	2.0	0.5	0.7	4.8	2.9	124
観	リゾート(ビーチ)	8.6	-	11.8	0.8	1.2	6
観光地タイプ別	歴史観光地	5.5	2.3	0.3	1.1	0.3	50
グイプ	都市観光地	0.5	-	-	8.3	21.2	8
別	農山漁村観光地	5.5	1.8	1.5	0.4	1.4	31
	観光地ではない	3.4	3.5	1.9	3.7	5.8	51
	その他	1.8	4.2	6.0	5.5	6.2	17
宿泊別	日帰り	-	-	-	-	3.5	214
宿泊り・	宿泊	-	-	-	-	3.2	208



#### 全国的に増加の見込み、大河ドラマ・夏のイベントに期待

今後の見通し(2006年4-6月期、7-9月期)

観光客数の見通しについて、2006 年 4-6 月期は DI 13.4%ポイント増、7-9 月期は 24.1% ポイント増といずれも増加、特に 7-9 月期は全地域で増加となっている。

東海以外の地域では昨年の『愛・地球博』へ流れた分の回復が期待される。また 7-9 月期 は多くの観光地でイベントの開催による増加が見込まれる。

北海道、北陸では 4-6 月期は豪雪による雪解けの遅れから DI が減少した。また北海道では昨年のラムサール条約登録による観光客の来訪も期待される(別海町、幌延町など)。

東北や関東は、4-6月期はGWの日並びがよいこともありDIが増加している。

東海では、大河ドラマ『功名が辻』放映による山内一豊のゆかりの地への観光増が期待される。また大河ドラマ効果は近畿、四国でもあるとみられる。

中国では、『石見銀山』が来年夏に世界遺産登録が期待されることから観光客の増加が見込まれる。

九州については、『九州国立博物館』が昨年 10 月に開館し、周辺の市町村への観光客来 訪があるとみられる。また、長崎市では『長崎さるく博』の開催(4 月~10 月末)による 観光客の大幅増が見込まれている。

沖縄については、沖縄人気の継続、新空港開港に伴う新規路線開設、特に神戸路線の好調が見込まれることから増加が期待される。 (相澤 美穂子)

#### 表 2 観光客数の見通し

		2006 年	4-6月	2006 年	7-9月
		DI (%ポイント)	有効サンプル数 (件)	DI (%ポイント)	有効サンプル数 (件)
£	全体平均	13.4	426	24.1	419
	北海道	7.9	76	13.2	76
	東北	15.2	66	30.3	66
	関東	19.1	68	11.9	67
	甲信越	16.7	24	41.7	24
抽	東海	14.6	48	23.4	47
地 域 別	北陸	28.6	7	28.6	7
別	近畿	19.4	31	33.3	30
	中国	28.6	28	40.7	27
	四国	33.3	21	47.6	21
	九州	17.8	45	14.3	42
	沖縄	16.7	12	25.0	12

1 JTBF観光地動向調査

·調査期間:2006年5月18日~5月31日

・調査対象:全国の自治体観光主管課、観光協会

·調査方法: 郵送または E-mail にてアンケートを送付、FAX または E-mail で回収

·調査数:1,828 件

·回答数:496件(回収率 27.1%)

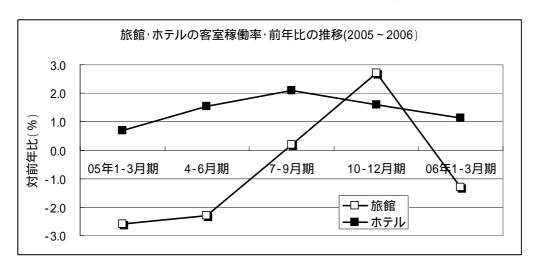
### 2006年1-3月期 宿泊動向



旅館の客室稼働率、平均宿泊単価は「平成 18 年豪雪」の影響でともに減少

旅館の 05 年下期の客室稼働率は2期連続して対前年を上回り回復基調を示していたが、 今期の全国平均は52.3%、対前年1.3%の減少となった。1 泊2 食の平均単価は13,410円 でこちらも対前年1.3%の減少である。

今期前年割れの大きな原因は、気象庁により「平成 18 年豪雪」と命名された大雪の影響で、雪害とその風評による出控えやキャンセルが今期需要を低迷させた。東海、近畿、中国、九州地方の旅館からも「近年にない雪」や「寒波」が旅行需要を低迷させたという指摘もあり、その影響は東日本に限らず全国的に及んだとみられる。



特に減少幅が大きかったのは北海道と東北で、実際の大雪の他にも、北海道では地元客の例年にない鈍い動きを実感した旅館が多く、東北では市町村合併や選挙に伴う流動低迷 を減少理由とした施設が複数みられた。

関東は全国的な動向とは異なり、平均稼働率アップ、単価アップとなったが、個別にみれば明暗は分かれている。北関東では雪とその風評の影響で苦戦が見られるが、1-2月の天候にくらべて春休みの3月に天候に恵まれたことや首都圏(新宿・池袋・大宮駅発)から日光・鬼怒川への直通運転開始(3/18~)、ハードのリニューアル等による集客力アップで稼働率を上げた旅館もある。

客室数規模別では、大型施設での稼働率アップ、小規模施設でのダウンがみられる。単価の増減と比較してみると、大規模旅館では単価は下げ止まっており、天候不順の影響を 比較的小さく押さえることができている。大規模旅館では他の規模に比べて外国人比率が



高いことから中国の旧正月などインバウンド客増も稼動アップに貢献したものとみられる。 なお、稼働、単価ともに下げ幅が目立つのは客室数 40 室~149 室の中規模・中大規模旅館 で、"中間"クラスの苦戦がうかがえる。

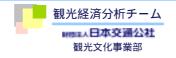
2006年1-3月の旅館ホテルの客室稼働率と単価

		旅	館		テル
		客室稼働率	1泊2食平均単価	客室稼働率	ルームチャージ
		(%) 下段は対前3	(円) 手同期比(%)	(%) 下段は対前領	(円) 手同期比(%)
		52.3	13,410	67.9	8,570
全	体平均	1.3	1.3	1.1	1.5
	コドバニ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	47.5	9,577	68.8	
	北海道	5.3	0.9	2.3	0.9
	東北	47.9	12,497	55.3	6,821
	米心	6.1	1.0	1.4	1.5
	関東	57.8	13,684	78.0	11,083
	N (A)	3.4	2.2	1.4	0.8
	甲信越	51.3	11,623	53.6	8,787
	1 IIA	2.9	0.9	4.0	4.5
地	北陸	49.7	14,610	61.0	7,116
域	1012	4.3	8.8	2.2	2.7
別	東海	55.6	15,066	63.6	8,117
		0.6	1.2	2.7	1.4
	近畿	52.8	15,757	70.0	8,548
		0.4	1.7	0.9	1.5
	中国	48.8	13,095	62.0	6,738
		0.6	5.5	1.9	1.4
	四国	50.3	13,965	64.2	7,075
		2.4	0.1	4.3	4.1
	九州	55.6 0.4	14,219 2.4	66.0 3.9	6,940 1.0
		0.4	2.4	76.3	1.0 19.656
	沖縄			1.4	19,030 0.8
	1 40 4#	54.2	10,810	74.0	10,258
*	大規模	0.5	0.0	1.0	1.8
施		60.4	12,005	-	-
設規	中大規模	1.2	2.5	-	-
規	中規模	51.7	12,455	68.8	7,330
模別	<b></b>	0.9	2.3	0.7	1.2
ניל	小規模	46.5	15,925	59.8	8,086
	7] 7月7代	4.3	0.6	1.9	2.0

<sup>\*</sup>旅館施設規模:大規模...客室数150室以上、中大規模...70~149室、中規模...40~69室、小規模...39室以下

#### ホテルの客室稼働率は上昇、単価 (ルームチャージ)は低下

ホテルは前期に引き続き、稼働率アップ(1.1%増)、単価ダウン(1.5%減)の動きが継続した。雪の影響を理由とする稼働率減少のあったホテルは旅館に比べると少なく、北海



<sup>\*</sup>ホテル施設規模:大規模…客室数201室以上、中規模…101~200室、小規模…100室以下

本調査では当期および前年同期の実績を尋ねており、「前年同期比増加率」は当期調査で得られたサンプルの回答をもとに算出している。

道と東海地域のみ前年割れとなった。北海道では雪祭り(第57回さっぽろ雪まつり:06年2月6日~12日)の集客減を理由としてあげたホテルが相当数みられ、東海では前年、3月25日に開幕した愛知万博の開幕前からの需要があったことに対する反動減とみているホテルが多い。

ルームチャージの平均単価は 8,570 円で、地域、規模にかかわらず単価は低下しているが、ネット利用の拡大と近隣への新規参入への対抗策としての単価低下を理由にあげるホテルが多かった。実際単価を下げたホテルのうち半数以上は稼働率を上げていることから、インターネット利用は市場では単価を下げる方向に働いているが、集客手段のコストダウンと稼働率のアップが経営に貢献していれば戦略的な価格政策とみることができる。

ペンション・民宿、公的宿泊施設、稼働状況は厳しいながら単価維持

ペンション・民宿、公的宿泊施設では稼働率平均がそれぞれ 35.5%(対前年 11.6%減)、51.2%(対前年 3.9%減)と比較的大幅な減少となったが、1泊2食平均単価はそれぞれ 8,072円(対前年 0.1%増)、8,900円(対前年 0.8%増)の微増という結果となった。個別の事情による宿泊客数の増減も多いが、概観するとやはり大雪や原油高(燃料費)による厳しさ、旅館の単価ダウンによる集客減が稼働率の平均値を下げたようである。

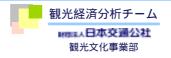
期待も込めて明るい夏へ - 次期の見通し(06年4-6月および7-9月)

直近(4-6月)の見通しは旅館・ホテルともに、宿泊客数・宿泊売上げの両DI値がプラスとなり、増加見通しの施設が増加、前回の2月調査時点よりも大幅に改善している。前回調査と比較すると旅館で宿泊客数3.1%ポイント 3.8%ポイント、宿泊売上4.3%ポイント 6.0%ポイント、ホテルで宿泊客数0.6%ポイント 13.8%ポイント、1.7%ポイント 8.4%ポイントである。

さらに夏(7-9月)の見通しについても旅館、ホテルとも明るく見通す施設が多く、DI値は高い。4月末の調査時点ですでに予約状況の手応えのあった日並びのよいゴールデンウィークへの期待、および全国的な需要が愛知万博に集中したといわれる前年の夏からとりもどせるという期待と意気込みとみられる。 (久保田美穂子)

#### JTBF 宿泊客動向調査

- ·調査期間:2006年4月28日~5月19日
- ・調査対象:全国の旅館、ホテル、国民宿舎等公的宿泊施設、ペンション、民宿
- ・調査方法:e-mail またはファクスにてアンケートを送付 当財団のホームページへの自記載またはファクスにて回収
- ·調査数:7,001 軒
- ·有効回答数:955 軒(回収率 13.6%)
  - うち旅館 397 軒、ホテル 473 軒、その他(公的宿泊施設、ペンション、民宿)84 軒



#### 旅館の今後の見通し

DI (%ポイント)

		2006年	54-6月	2006年7-9月		
		宿泊者数	宿泊者数 宿泊売上		宿泊売上	
全体	平均	3.8	6.0	18.6	18.1	
	北海道	6.5	3.3	22.6	13.3	
	東北	9.3	0.0	7.7	15.4	
	関東	16.7	27.1	14.6	22.9	
116	甲信越	3.8	7.5	24.5	22.6	
地 域	北陸	0.0	10.0	45.0	35.0	
別	東海	8.6	8.6	7.1	3.6	
	近畿	5.3	8.1	27.0	33.3	
	中国	21.1	0.0	10.5	0.0	
	四国	42.9	35.7	35.7	28.6	
	九州	12.5	15.6	19.4	16.1	
*	大規模	7.1	12.2	28.6	22.0	
規	中大規模	7.5	4.3	19.4	21.5	
模 別	中規模	20.4	18.6	25.0	20.0	
נימ	小規模	0.8	2.3	10.9	13.2	

#### ホテルの今後の見通し

DI (%ポイント)

		2006年	54-6月	2006年	7-9月
		宿泊者数	宿泊売上	宿泊者数	宿泊売上
全体	平均	13.8	8.4	13.1	7.6
	北海道	11.8	12.1	18.2	9.4
	東北	25.0	11.8	16.7	14.7
	関東	37.5	37.3	22.5	15.8
	甲信越	26.3	10.5	26.3	42.1
地	北陸	22.2	11.1	33.3	33.3
域	東海	9.5	23.8	16.7	24.4
別	近畿	8.9	5.6	21.3	12.4
	中国	15.4	2.6	2.6	15.4
	四国	26.7	20.0	46.7	33.3
	九州	1.9	1.9	0.0	5.7
	沖縄	6.7	6.7	6.7	20.0
* +B	大規模	15.4	14.4	23.4	19.9
規 模	中規模	9.1	3.7	4.9	0.6
別	小規模	17.6	8.8	11.9	4.4

<sup>\*</sup>施設規模:大規模…客室数150室以上、中大規模…70~149室、中規模…40~69室、小規模…39室以下 ここでのDI値は、「かなり増」「やや増」とする回答の割合から「やや減」「かなり減」とする回 答の割合の差をとったもの。



<sup>\*</sup>施設規模:大規模…客室数201室以上、中規模…101~200室、小規模…100室以下 ここでのDI値は、「かなり増」「やや増」とする回答の割合から「やや減」「かなり減」とする回答の割合の差をとったもの。



#### 旅館の客室稼働率の推移

上段:稼働率(%)

下段:前年同期比增加率 (%)

						前年同期比增	加率 (%)
			2005年		2005年)	/ 2006年	
		サンプル数					
			1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期
<b>4</b>	体平均	390	52.5	54.1	61.9	59.3	52.3
土	<b>本十</b> 均	390	2.6	2.3	0.2	2.7	1.3
	北海道	32	51.9	51.5	73.9	52.8	47.5
	70/母炟	32	2.5	4.3	0.9	2.2	5.3
	東北	56	49.0	55.0	61.2	59.8	47.9
	米心	30	3.2	1.6	2.5	0.2	6.1
	関東	50	55.5	54.7	64.4	63.7	57.8
	月米	30	2.5	1.3	0.1	4.0	3.4
	甲信越	57	50.1	50.5	58.2	51.5	51.3
	中旧極	37	3.4	6.6	0.7	9.4	2.9
Lile	北陸	21	47.4	50.3	57.5	56.1	49.7
地 域	オロル王	21	2.5	14.5	7.9	0.7	4.3
別	東海	63	57.7	58.2	65.3	60.2	55.6
,,,,	米/母	03	5.1	1.3	4.7	1.5	0.6
	近畿	41	52.8	55.6	57.7	68.3	52.8
	に既	41	3.2	1.6	1.4	5.9	0.4
	中国	22	50.4	47.5	52.6	58.3	48.8
	<b>下国</b>	22	0.1	2.2	1.0	2.1	0.6
	四国	14	48.7	56.2	58.3	57.2	50.3
	四国	14	5.2	0.3	1.3	6.5	2.4
	九州	34	53.3	53.8	60.4	61.3	55.6
	7 6711	34	2.2	3.9	2.8	0.4	0.4
	大規模	45	60.0	58.8	69.6	63.6	54.2
*	八元1天	+5	0.7	3.6	0.3	4.9	0.5
	中大規模	99	57.3	58.2	68.1	64.5	60.4
施設規模	*   * / \ / / 九 /   大	33	3.3	2.5	1.0	3.4	1.2
規	中規模	104	51.3	54.4	60.8	58.4	51.7
模 別	: 广水心大	104	4.1	0.3	0.6	3.7	0.9
נימ	小規模	141	47.4	49.5	56.2	54.3	46.5
	.7,V/L/X	171	0.7	3.1	0.6	0.7	4.3

<sup>\*</sup>施設規模:大規模…客室数150室以上、中大規模…70~149室、中規模…40~69室、小規模…39室以下 \*サンプル数は2006年1-3月期調査のもの。

本調査では当期および前年同期の実績を尋ねており、「前年同期比増加率」は当期調査で得られたサンプルの回答をもとに算出している。

- \* 客室稼働率とは、総客室数に対しての宿泊に利用された客室数の割合を指す。
- \* 定員稼働率とは、定員に対しての宿泊人数の割合を指す。



#### 旅館の一泊二食単価の推移

上段:単価(円)

下段:前年同期比增加率 (%)

						前年同期比增	加率 (%)
			2005年		2005年	/2006年	
		サンプル数					
			1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期
<b>全</b>		351	13,439	13,485	13,778	13,925	13,410
土	<b>本十</b> 20	331	0.4	0.3	0.3	0.4	1.3
	北海道	27	9,669	9,065	11,128	10,634	9,577
	70/40년	21	0.2	0.0	1.1	0.7	0.9
	東北	53	11,831	11,722	11,799	12,562	12,497
	<b>米</b> 46	33	0.5	1.0	0.2	0.4	1.0
	関東	44	13,925	14,344	16,134	15,184	13,684
	月米	44	1.8	0.5	0.1	1.4	2.2
	甲信越	52	10,446	12,474	13,685	12,501	11,623
	中口壓	32	0.9	1.2	1.3	2.3	0.9
Lile	北陸	19	14,854	14,539	14,433	14,813	14,610
地 域	オロルモ	13	1.0	0.3	0.3	0.4	8.8
別	東海	55	16,222	16,112	14,957	16,139	15,066
,,,	米/母	55	0.6	0.5	0.9	0.4	1.2
	近畿	38	17,819	14,393	15,293	16,791	15,757
	<b>厂</b> 取	30	2.4	0.1	1.9	1.0	1.7
	中国	19	12,920	13,971	12,104	14,657	13,095
	中国	19	0.3	1.5	0.8	1.0	5.5
	四国	12	13,526	13,519	13,473	13,049	13,965
	[2] [2]	12	0.2	1.1	1.0	2.0	0.1
	九州	32	13,297	13,263	13,599	13,712	14,219
	7 6911	32	1.3	2.4	0.8	0.8	2.4
	大規模	39	11,795	11,111	12,104	11,263	10,810
*	八九代	39	0.1	0.3	0.1	1.5	0.0
	中大規模	89	11,894	12,374	12,479	12,019	12,005
施 設 規	コンへんだ 1天	09	0.5	0.3	0.4	0.0	2.5
規	中規模	98	12,575	12,637	12,520	13,721	12,455
模 別	一元代	90	0.0	1.4	0.7	0.6	2.3
נימ	小規模	124	15,783	15,673	16,083	16,320	15,925
	いたが	124	0.6	0.7	0.1	1.3	0.6

<sup>\*</sup>施設規模:大規模…客室数150室以上、中大規模…70~149室、中規模…40~69室、小規模…39室以下 \*サンプル数は2006年1-3月期調査のもの。

本調査では当期および前年同期の実績を尋ねており、「前年同期比増加率」は当期調査で得られたサンプルの回答をもとに算出している。



#### ホテルの客室稼働率の推移

上段:稼働率(%)

下段:前年同期比増加率 (%)

						前年同期比增	加率 (%)
			2005年		2005年)	/ 2006年	
		サンプル数					
			1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期
<b>全</b>	体平均	473	68.4	68.9	74.7	71.8	67.9
			0.7	1.5	2.1	1.6	1.1
	北海道	34	68.4	67.8	81.2	69.2	68.8
			1.5	0.7	1.2	0.5	2.3
	東北	38	58.3	62.8	69.9	64.1	55.3
			0.1	2.6	2.8	1.8	1.4
	関東	105	78.2	74.9	78.4	79.4	78.0
	<b>以</b>	.53	1.7	1.4	0.4	1.1	1.4
	甲信越	24	52.7	52.8	69.6	57.8	53.6
	1 IIIAE	21	0.6	1.7	1.3	0.5	4.0
	北陸	9	53.5	59.6	68.9	65.9	61.0
<b>∔</b> ₩	AOPE	ů	7.6	4.5	7.0	2.2	2.2
地 域	東海	42	66.7	72.4	78.6	67.4	63.6
別	<b>水/</b> 母	ΨZ	2.5	12.6	10.8	1.0	2.7
,	近畿	92	71.0	75.4	77.2	78.5	70.0
	<b>/ ⊞X</b>	L 田X, 92	3.8	1.6	3.0	2.0	0.9
	中国	40	62.4	63.1	69.8	69.2	62.0
	·T=	40	0.1	0.2	0.8	5.7	1.9
	四国	15	58.7	59.8	65.0	64.6	64.2
		13	1.7	1.1	0.3	3.3	4.3
	九州	59	64.2	61.2	65.4	66.7	66.0
	J 6711	59	3.0	1.0	3.9	0.1	3.9
	沖縄	15	77.6	68.8	79.1	68.9	76.3
	/ 下部电	13	5.3	1.7	3.2	5.2	1.4
*	大規模	159	73.6	74.8	79.8	77.3	74.0
施	八/元代	109	2.7	2.7	3.3	2.1	1.0
設 規	中規模	173	70.3	69.4	75.5	73.3	68.8
規	中风保	1/3	0.1	1.0	1.0	1.6	0.7
模 別	小規模	141	60.6	62.4	68.4	64.9	59.8
ניל	小戏佚	141	0.3	0.8	2.0	1.3	1.9

<sup>\*</sup>施設規模:大規模...客室数201室以上、中規模...101~200室、小規模...100室以下

本調査では当期および前年同期の実績を尋ねており、「前年同期比増加率」は当期調査で得られたサンプルの回答をもとに算出している。

<sup>\*</sup>斜字体はサンプル数が10軒に満たないもの。

<sup>\*</sup> サンプル数は2006年1-3月期調査のもの。



#### ホテルのルームチャージの推移

上段:単価(円)

下段:前年同期比増加率 (%)

						前年同期比增	加率 (%)
			2005年		2005年	/ 2006年	
		サンプル数					
			1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期
<b>全</b>	 本平均	373	8,314	8,883	9,170	8,727	8,570
土	サージ	373	1.3	0.1	0.1	0.4	1.5
	北海道	25	5,677	6,954	7,883	5,944	6,670
	70/4년	25	2.7	2.3	0.3	2.0	0.9
	東北	31	6,876	6,690	7,551	7,065	6,821
	<b>未</b> 40	31	2.1	1.5	2.6	0.8	1.5
	関東	90	10,894	11,103	11,449	11,070	11,083
	利米	90	1.6	0.8	1.5	0.4	0.8
	甲信越	14	8,418	11,533	13,876	8,878	8,787
	中口爅	14	0.8	3.1	0.2	1.0	4.5
	北陸	7	6,245	6,408	7,090	6,917	7,116
Life	101年	,	1.4	0.6	1.9	4.1	2.7
地 域	東海	35	7,587	8,715	8,882	8,104	8,117
別	米/母	33	0.4	6.4	8.4	0.2	1.4
,,,,	近畿	79	8,302	8,559	8,978	9,036	8,548
	八郎	19	1.3	0.2	0.2	0.2	1.5
	中国	32	6,680	7,261	7,307	7,301	6,738
	<b>丁</b> 酉	32	0.4	0.1	1.6	2.1	1.4
	四国	12	6,997	6,876	7,295	6,573	7,075
	디프	12	0.5	1.3	2.4	1.5	4.1
	九州	44	7,514	7,906	7,508	7,825	6,940
	J 6911	44	1.2	0.7	0.3	0.4	1.0
	沖縄	4	<i>8,273</i>	11,391	10,896	13,368	19,656
	/ 下が电	7	9.1	10.3	1.1	2.3	0.8
*	大規模	130	9,984	10,730	10,760	10,834	10,258
	/ \ / 元 1 天	130	1.4	0.1	0.6	0.2	1.8
設	中規模	138	7,525	7,766	7,927	7,430	7,330
規	∵广/元1天	130	0.7	0.1	0.2	0.2	1.2
施設規模別	小規模	105	7,423	8,193	8,758	7,872	8,086
נימ	ነ ነላπነታ	100	1.8	0.5	1.3	1.0	2.0

<sup>\*</sup>施設規模:大規模...客室数201室以上、中規模...101~200室、小規模...100室以下

本調査では当期および前年同期の実績を尋ねており、「前年同期比増加率」は当期調査で得られたサンプルの回答をもとに算出している。

<sup>\*</sup>斜字体はサンプル数が10軒に満たないもの。

<sup>\*</sup> サンプル数は2006年1-3月期調査のもの。

#### 宿泊施設調査 本編参考統計表



#### ペンション・民宿、公的宿泊施設の推移

上段:稼働率(%)、1泊2食単価(円)

下段:前年同期比増加率 (%)

		サンプル数	2005年	2005年					
		ソフフル鉄	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期		
稼 働	ペンション・	33	34.3	29.2	44.2	28.7	35.5		
	民宿	33	8.3	2.0	0.1	15.4	11.6		
率	公的宿泊	52	8494.6	54.3	62.4	56.0	51.2		
•	施設	32	0.2	3.8	2.2	0.4	3.9		
1	ペンション・	32	8,364	8,427	8,408	8,797	8,072		
(円 円価 2 ) 食	民宿	32	1.9	1.6	0.2	2.8	0.1		
	公的宿泊	56	8,495	8,490	8,823	9,251	8,900		
	施設	30	0.2	0.2	0.3	1.3	0.8		

<sup>\*</sup>サンプル数は2006年1-3月期調査のもの。

本調査では当期および前年同期の実績を尋ねており、「前年同期比増加率」は当期調査で得られたサンプルの回答をもとに算出している。

### JTBF観光経済レポート 付属統計表



2006年7月12日現在

	_			00005	000.4	200=#		200	05年		2006年	AULICIA L-174-17		
項目名				2003年	2004年	2005年	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	データ出所および注記		
		宿泊旅行者数(15~79歳)		(万人回)	21,841	r 21,148	p 20,795	r 4,227	4,663	6,130	5,775	p 4,030	(財)日本交通公社「JTBF旅行量調査」	
	発			(前年同期比)	-	r 3.2	p 1.7	r 5.3	2.3	2.7	2.8	p 4.7	注)本数値は暫定値であり、最新の調査結果 の反映、および推計手法の改良により 随時改訂される。 plは速報値、r は改訂値。	
	地	宿泊旅行単価(15~79歳)		(千円/人回)	38.5	r 38.5	p 38.5	r 35.2	38.8	38.5	40.5	p 37.8		
				(前年同期比)	-	r 0.0	p 0.1	r 6.1	1.8	0.8	4.7	p 7.4		
		入込総数		(前年同期比)	1.0	0.7	2.7	3.6	0.8	0.3	3.1	2.4	(財)日本交通公社「JTBF観光地動向調査」	
		観光施設利用者数		(DI値:%)	19.7	18.7	17.8	37.1	13.6	15.5	8.0	8.6		
		旅館	旅館 定員稼働率	(%)	40.5	39.6	39.8	36.2	36.4	44.1	41.2	36.1		
				(前年同期比)	1.3	6.9	1.8	3.3	3.3	1.0	1.7	0.9		
			客室稼働率	(%)	57.5	57.0	57.3	52.5	54.1	61.9	59.3	52.3		
				(前年同期比)	0.2	2.4	0.5	2.6	2.3	0.2	2.7	1.3		
				(千円)	13.2	13.6	13.9	13.4	13.5	13.8	13.9	13.4		
				(前年同期比)	7.0	0.6	0.2	0.4	0.3	0.3	0.4	1.3	(財)日本交通公社「JTBF宿泊客動向調査」 注)前年同期比の増加率は、各期の最新調査で	
国		ホテル	定員稼働率	(%)	60.3	60.6	62.7	59.2	59.8	66.5	62.1	55.9	注)削牛同期にの増加率は、台州の取利制量で 得られたサンプルの回答をもとに算出。	
内旅				(前年同期比)	3.6	0.9	2.1	0.5	2.2	2.7	1.2	3.1		
行			客室稼働率	(%)	69.1	69.9	71.3	68.4	68.9	74.7	71.8	67.9		
				(前年同期比)	0.0	0.3	1.9	0.7	1.5	2.1	1.6	1.1		
			ルームチャージ	(千円)	9.2	8.7	8.9	8.3	8.9	9.2	8.7	8.6		
				(前年同期比)	2.8	1.8	0.6	1.3	0.1	0.1	0.4	1.5		
		航空旅客数(国内線合計)		(万人)	9,669	9,377	9,442	2,254	2,250	2,560	2,378	2253*		
				(前年同期比)	1.1	3.0	0.7	0.1	1.1	1.2	0.6	0.1		
		鉄道	JR定期外旅客数	(万人)	328,554	329,883	322,682	81,259	82,799	84,559	84,067	51630**	国土交通省「国土交通月例経済」 注) *3月分は主要9社の速報値による	
				(前年同期比)	0.4	0.4	0.8	1.7	1.2	1.9	2.0	0.4*	注) 3月分を除いたデータ **3月分を除いたデータ	
	運	新幹絲	新幹線旅客数	(万人)	27,713	28,916	30,094	7,179	7,397	7,890	7,628	4807**		
	輸			(前年同期比)	0.8	3.2	4.1	1.2	3.3	5.0	5.7	9.9*		
		高速道路)	通行台数日平均	(万台/日)	402	409	422	395	416	449	428	416	(財)高速道路調査会 「高速道路と自動車」	
		主要旅行業者50社国内取扱額		(前年同期比)	0.2	1.7	3.2	0.8	3.8	4.7	3.5	5.3	- 国土交通省総合政策局旅行振興課	
				(十億円)	3,301		3,278		782	939	844	699		
				(前年同期比)	0.8	2.8	2.1	1.5	1.4	3.2	2.1	1.3		
	日本	]本人出国者数		(万人)	1,330	1,683	1,740		395	469	440	431	法務省 (2006年3月分はJNTO推計値)	
海				(前年同期比)	19.5	26.6	3.4	16.1	3.1	1.9	1.3	1.1	- Appel to	
外旅	旅行	行単価		(千円)	349.0	341.1	337.2	320.4	345.9	347.6	335.1	-	日本銀行、日本航空、全日空、法務省 資料よりJTBF推計	
行				(前年同期比)	5.8	2.3	1.1		0.6	1.6	0.8	-		
	主要	要旅行業者50社海外取扱額		(十億円)	1,801	2,320	2,427	530	571	719	606	551	国土交通省総合政策局旅行振興課	
		·国人旅行者数		(前年同期比)	19.7	28.8	4.6		7.9	1.3	1.5	3.9		
訪	外国			(万人)	521	614	673		167	183	164	p 171	国際観光振興機構(JNTO) (2006年3月分はJNTO推計値)	
日旅	-			(前年同期比)	0.5	17.8	9.6		7.3	10.2	10.8	p 7.0		
行	旅行	<b>页単価 (日本</b>	単価 (日本国内)		196	199	202		209	198	214	-	日本銀行、国際観光振興機構(JNTO) 資料よりJTBF推計	
				(前年同期比)	-	1.3	1.8		2.1	1.8	3.9	-		
主 要	G D	DP (名目·原系列)		(十億円)	490,544	496,050	,	120,619	125,381	123,254	133,930	,	- 内閣府経済社会総合研究所	
				(前年同期比)	0.2	1.1	1.7		1.4	1.5	2.6	1.8		
	G D	GDP (実質・原系列)		(十億円)	512,817	524,622	,	130,627	132,355	134,780	141,442	134,730		
指標				(前年同期比)	1.8	2.3	3.0		2.6	2.8	4.2	3.1		
1រភ	東京外為銀行間平均		(円/ドル)	115.9	108.2	110.2	104.4	107.6	111.2	117.3	116.9	東洋経済新報社		
			(前年同期比)	7.5	6.6	1.8	2.6	1.9	1.2	10.8	11.9			